

第3回定山溪観光魅力アップ構想検討会議

議事要旨

■開催概要

【第一部】

日 時：平成26年5月9日（金）13：00～16：30

場 所：集 合 定山溪まちづくりセンター集会室
意見交換会 花もみじ館 2階 はるにれ

参加者：金川委員、布村委員、長谷川委員、濱野委員、古川（雅）委員、古川（善）委員、
山田委員

事務局 札幌市 高野、高松、札幌、西
（株）KITABA 酒本、内匠、小川、伊藤

【第二部】

日 時：平成26年5月12日（月）13：50～16：30

場 所：集合 定山溪まちづくりセンター集会室

参加者：橋場委員、濱上委員

事務局 札幌市 高松、札幌、西
（株）KITABA 内匠、小川、伊藤

■まち歩き

- ・まちづくりセンター→湯の滝→定山源泉公園→月見橋→二見公園→二見吊橋→心の里定山
→三笠緑地→錦橋→太郎の湯→手湯→まちづくりセンター

■意見交換

【まち歩きの感想】

- ・今まで温泉街や散策路などをしっかりと見る機会がなかったが、今日歩いてみて、想像以上にメンテナンスが必要な箇所が多いことがわかった。
- ・定山溪に来たお客様にとっては散策の目的となるものが明確ではないので、案内しづらい。
- ・二見吊橋よりも先の散策路を歩いてもらう仕掛けが今の段階ではないので、それを見つける必要がある。
- ・観光地として楽しめるように統一して、一つ一つのスポットを磨き上げる必要性を感じた。

- ・それぞれの場所の見せ方を考えていかななくてはいけない。
- ・整備や演出、見せ方などの最低限やらなくてはならないことに取り組まなければならない。
- ・外を歩いてもらうには目的が必要であると改めて思った。それは、点としての目的の場所を繋いでいくことと、草や花、木、山などを見ながら道を歩くことの2つ。それぞれ両方とも取り組んでいかななくてはいけないし、その意味づけをしっかりとしていきたい。

- ・二見吊橋にあるかっぱのモニュメントは「何を覗き込んでいるのだろう？」と興味を引くものであり、もっと活かしたほうがよいと思う。
 - ・二見吊橋を渡った先のスペースにカフェなどがあるとよいと思う。
 - ・子どもは郷土資料館で学んだり、高齢者はパークゴルフを楽しんだり、年代別に楽しむことができるメニューを充実させていただきたい。
 - ・パークゴルフが無料だということも、国道沿いに手湯があることも知らなかった。
 - ・お金を持っている 60 代以上のシニア層をターゲットにした魅力をつくり、その情報をしっかりと伝え、連泊に繋がるのではないかと。
 - ・市民に来てもらうには、パンフレットなどに割引特典がついていると効果的である。
 - ・「おみくじを引いて当たりが出るとかっぱグッズがもらえる」などの仕組みがあると、持ち帰った先で話題になり、かっぱや定山溪のアピールになるのではないかと。
-
- ・既存の資源の管理をもう少し精査し、作業のレベルを見直す必要があるのかもしれない。
 - ・財源不足に陥り管理不行き届きになると、劣化して結局使えなくなってしまう。それをそのまま放置し、お客様の目に触れ悪い印象を残してしまうことになる。今後街並みの整備をし、どこかを直したり、きれいにしたり、観光道路ができても、その後どうしていくのか考えていかなければ同じ事を繰り返してしまう。それをしないようにしっかりと財源も含め考えなければいけない。
-
- ・今ある資源の管理が課題である。維持・管理をしっかり行い、長い年月をかけて常に少しずつ魅力アップしていかなければならない。
 - ・せっかく二見公園や定山源泉公園というよい場所があっても、常にどこかが壊れている。それは今まで手をかけてこなかったということであり、一度に整備するのは大変だが、少しずつでも常に取り組んでいかないといけない。
 - ・来ていただいたお客様をがっかりさせないためには、いろいろなことを考えていかなければならない。それがお客様をお迎えする上で大切なことであり、常に魅力アップしていくことに繋がるのではないかと。
-
- ・定山溪の街並みを今から昔ながらのものに変えるのは難しい。目的地をもって歩いてもらうなら、スポットごとに磨きをかけなければならないと思う。
 - ・散策路に関しては、素材自体はきれいだと思うので、ずっと石畳を敷き詰めるだけではなく、途中でウッドチップに切り替えたり、木々のトンネルがあるなど、メンテナンスと共にもう少しメリハリをつけ、歩く楽しみを作るとよりよいのではないかと。
 - ・観光地を歩くとその土地の歴史などの読み物がよくあるが、そのような足を止めてその土地と向き合えるような読み物を整備するとよいのではないかと。
 - ・定山溪は駐車場がほとんどないことが課題である。
 - ・目的地と目的地の間や景観のよい場所に清潔で座りやすいイスやベンチがほしいと思った。例えば月見橋の上は川のせせらぎの音がするし、天気良ければとても気持ちのよい場所だと思うので、ソフトクリームを食べながら 30 分くらいゆっくりするのも楽しいのではないかと。そう

いったことが集積となり、よりまちを歩く流れをつくっていくことができるのではないかと。

- ・訪れる人にとって散策路はどこまで入ってよいのかわかりづらいので、統一感のあるきれいなサインを設置すれば、なお良くなると感じた。
- ・駐車場がどこかわからない人が多く、GWの連休中には定山源泉公園のあたりから車の行列ができてしまい、警察からクレームが来た。
- ・1日に数人は観光協会にトイレを借りに来る人がいる。
- ・現在、スポーツ公園のところに駐車場があるが、それ以外にできれば国道拡幅と同時に国道に面した駐車場とトイレの設置をお願いしたい。
- ・定山溪には子どもの頃から来ているが、それなのに知らない場所が多かった。なぜなら、夕方に定山溪に来て、宴会をして温泉に入りまたお酒を飲んで、朝には帰る、という過ごし方が定着しているからだと思う。
- ・また、老朽化した建物や廃墟がとても目立ち、風化している公園などの公共施設も増えているので、抜本的に取り組む必要があると痛感した。
- ・こんなにも市民が多く訪れる温泉地は他にはなかなかないと思う。おそらく、登別や洞爺湖などの温泉は、町民が訪れることは多くなく、ほとんどが遠方からの観光客だろう。だからこそ、旅行・観光という気分ですらいろいろなところを見て回るというのが定着しているのではないかと。
- ・せっかく月見橋の一部が川側にせり出しているけど、特に撮影スポットとしてよいポイントではない。温泉街のメインがこの通りならば、ここにお金を投入しないといけない。
- ・川の中央に設置されている警報装置が、景観を損ねている。これがなければ、きれいに写真が撮れる。
- ・「二見定山の道」という名前はとてもよいと思うので、こういった歴史と絡めてアピールしていけば、よい散策路になると思う。
- ・定山溪は高い芸術的な価値を有しているのだから、定山溪と関わり深い人がいるということを知り、きちんと受け止めることが必要だと思う。
- ・美泉定山にこだわって課題整理する方がよいと思う。インパクトもあるし、関係者の共通の理解が得られる気がする。定山は間違いなく実在して、小樽・朝里から定山溪に入ってきている。かっぱは実在しないので少し唐突な気がする。
- ・国道拡幅は、ピンチだけというわけではなく、チャンスでもあると思う。
- ・点在している店や資源を、どのようにつなげていくかが問題である。集約する仕組みがないと、お客さんがまち歩きをするには大変である。
- ・点在している事実は変えられないので、それを前提にした温泉街やまちづくりを考えないと難しいと思う。本州の温泉街はまちがかなり集約されている。
- ・ホテルの中のサービスは充実しているが、周辺との関りがあまりないので、まちづくりとして、区画整理などでしっかりゾーニングすることが必要である。
- ・温泉たまごは、みんな写真を撮ったり、それを Twitter に載せたりするのはないか。面白い

試みだと思う。しかし、温泉たまごのサインはあるが、どこに売っているか書かれていない。

また、たまごを食べるための器や殻入れ、味付け用の塩やたれなどが無い。

- ・玉子と安いプラスチックの器でよいので、それをセットにして定山源泉公園内で売り、その場で温泉たまごを割って食べて、その場でごみを捨てるシステムをつくるとよいのではないか。
- ・土日だけでもワゴンで温泉たまごを売っている人がいると、かなり売れるのではないか。
- ・「お湯につけている間にカラスに取られるので、離れないで下さい。」というアナウンスは、定山源泉公園内にも書く必要があるのではないか。
- ・旅先では普通、せんべいなど何か食べ歩きができるものがある。それが温泉まんじゅうであればよいのだが、店が閉まるのが早すぎる。札幌で少しゆっくりして午後一番に定山溪に来て、お店が閉まっているので残念。
- ・ぬくもりの宿ふる川から二見公園までの通りは、ホテルのバックヤードが丸見えで、景観的にあまりよくない。フェンスを張るだけでも少しはよくなると思う。
- ・空き地を日帰り用駐車場にするだけでもだいぶ便利になると思う。もしくは何か新しい建物が整備されてもよい。
- ・鉄製の柵が壊れてしまっている。整備するなら木製の方が自然とも調和してよいと思う。
- ・かっぱ大王はかなりB級な感じがする。王冠に「王」という字がかいてあるだけで、どこにかっぱ大王と書いてあるサインなどもなく、わかりづらい。
- ・若い人が入りやすいカフェが増えると、定山溪が新しくなってきたような気がする。
- ・観光協会は、車で通ったときに見やすいサインがないのでわかりづらく、信用金庫の方が目立ってしまっている。
- ・手湯は、柄杓でかっぱの皿に湯を入れると口からお湯が流れ出てくるのでそこに手をかざす仕組みになっているが、説明書きがないのでわからず、柄杓からそのままお湯を手にかけてしまった。
- ・橋の欄干などでさりげなくかっぱがモチーフになっているが、中途半端にかっぱがいるのはもったいない。カップを推すなら、もっとアピールした方がよいと思う。

【既存観光スポット等の磨き上げ】

- ・二見吊橋から奥の散策路には、危険な状態の場所があり、一部通行止めになっている。散策路の所有は北海道で、管理は札幌市のみどりの管理課、その下で観光協会が請け負っているが、そこをなんとか解決しないと、せっかく作った散策路が生きてこない。
- ・定山溪は他の温泉地と比べるとそこまで古い歴史はないので、物語（ストーリー）を作るのはどうか。それが場所ごとに繋がると、まち歩きの楽しみにもなるのではないか。
- ・前回までの検討会議で、温泉といえば「湯けむり」という意見が多くみられたが、川から大量の湯けむりを出すのは難しい。それならば既存の資源を活かし、湯の滝の湯量を増やして大量の湯けむりを出すとインパクトもあり、よいのではないか。
- ・二見吊橋からかっぱ淵の案内が見えるとよい。
- ・かっぱ淵と呼ばれている由縁などが書いてあるとよい。

- ・昭和 30 年頃の定山溪の写真を、現在の風景と見比べるようにして置くと、足を止めて見るし、ストーリー性があるのではないか。特に月見橋からの景色や千人風呂、鹿の湯クラブなどの昔の写真があるとよいのではないか。
- ・定山溪はかっぱのイメージで PR しているので、かっぱ淵は特に見せ方や場所のありかたを考えなくてはいけない。
- ・昔に戻すのではなく、昔を振り返るような見せ方も考えられる。
- ・定山源泉公園にボランティアの案内人をおくと、案内が強化されるし、観光客と交流ができるのでよいと思う。
- ・東北の温泉地に行くと、必ず熱々の蒟蒻が売られているように、定山溪の名物になるような食べ物をつくりあげなくてはいけないと思う。
- ・定山源泉公園で川辺まで降りて、川や溪谷を見ることができるとよい。そうするとよい写真が撮れるのではないか。
- ・「この先、食べ物を売っています」と、散策路の入り口などに書いておくと、歩くことの目的に繋がりがよいのではないか。
- ・例えば、散策路の先まで持っていけるように携帯温泉まんじゅうといった、きびだんごのようにぶらさげられる温泉まんじゅうを売ったらどうか。
- ・温泉たまごにしても絵馬にしても、定山溪物産館で買ってもらい、それぞれの場所に行ってもらおうというセルフサービスのシステムになっているので、それならそこを拠点にしたセルフサービスのコンテンツを徹底するとよいのではないか。
- ・番号が振ってあるかっぱのサインは、何の番号なのかよくわからない。かっぱの番号と連動した MAP があると、自分の現在位置を確認できるので、まちあるきにも有効に使えると思う。

【温泉街の魅力アップ】

- ・定山溪の温泉街のメインの通りは、今も昔も定山溪中央線だと思う。そこから少し離れた場所にある、定山溪ビューホテルや定山溪グランドホテル瑞苑に宿泊している方に、どうやってメインの通りまで来ていただくかという問題がある。
- ・国道拡幅に伴って観光協会がまちづくりセンターの横あたりに移転することが予測される。その場合、そこに車を停めて情報を得る人が多いと思うので、観光協会を拠点としてそこから散策ルートをつくっていきたい。また、二見吊橋までを往復するのではなく、川の上流に向かって左側にも散策路を作り環状にして周遊できるようにすることを提案する。
- ・雰囲気や賑わいのある温泉街を期待しているお客様の声に答えるのであれば、国道からの入り口である見返り坂から翠山亭までの道を、昔の温泉街にタイムスリップしたような街並みにし、照明なども現代的なものではなく、提灯のような和風の照明にするとよいのではないか。
- ・また、街並み全体を同じような色合いにするのではなく、部分的にメリハリがあると、歩いて

いて楽しいと思う。

- 定山溪に何回か宿泊したことのある人の中にも、国道沿いしか知らず、下町があることを知らない人が少なからずいる。もうすこしわかりやすく温泉街を表現するのであれば、見返り坂の入り口にアーケードを設けたり、月見橋の見た目を江戸時代の橋のようにしたりと、大幅に変えるとよいのではないか。
- 湯の滝はもっと高低差をつけるとしぶきが飛んで迫力が増し、さらによくなるのではないか。
- 国道拡幅により車のスピードが速くなると、なおさら温泉街に入りづらくなるので、温泉街の入り口として見返り坂のしつらえをしっかりと考えていくべきではないか。
- 車から見て温泉街の場所がわかりやすいように、ゲートなどがあると一番よい。「定山溪温泉へようこそ」と、登別の金棒を持った鬼のように、かっぱの大きな像を建てるとか、それくらいわかりやすいものを建てるとよいのではないか。
- 洞爺湖のように、ホテル一軒がよい方向に走り出したら、周りにもよい影響を与えるのではないか。
- 廃屋がたくさんあるが、何かに再利用できないか。リノベーションとして、誰かが何かを取り組んでいる方が、ただ空き家をそのままにしているよりもよい。
- 残念ながら温泉街のメイン通り（定山溪中央線）ですら、廃業している飲食店がある。強制はできないし精査も必要だが、もう少し気軽にテナントとして借りることができる雰囲気が出せるとよいのではないか。
- お客様は、和風の街並みだけではなく、にぎやかな温泉街や繁華街も求めていると思う。現在はそぞろ歩きをするにもホテルの外はお店があまりなく暗い感じの街並みになってしまっている。温泉街が統一されておらず、がちゃがちゃした感じがしても、気軽に覗ける雑貨店や、食べ物をつまめるお店などが通りにあって明かりや賑わいが見えれば、温泉街の雰囲気が出ると思う。
- ホテルから温泉街まで川沿いを歩けるようになれば動線が良くなり、夕暮れ時などに情緒のある雰囲気を感じてもらえたり、メインストリートで買い物やカフェに寄ったりと、ホテルの外を出歩く人が増えるのではないか。
- 定山溪でお店を開くのは、採算をとることを考えると厳しいので、ある程度の補助で軽減してあげないと大変だと思う。
- 箱があって新しい人が参入するのはハードルが高いので、まずはチャレンジとして各ホテルの一角でマルシェやお店を開かせてもらい、各ホテルを巡るような仕組みが最初のステップにあるとおもしろいのではないか。
- 起業したい人が挑戦できるようなスペースを用意して、モデルケースとして取り組んで成功事

例をつくることで、さらに開業する人を集めることができるのかもしれない。しかし、国の制度を利用しても補助金が出る期間が終わった後のことを考えると、簡単にはいかない。

- ・二見公園周辺の散策路を整備しても、冬は除雪用の重機が入れないので、人の手で除雪を考えると相当の費用がかかるし、橋の手前の急斜面は雪崩などの危険があるので立ち入り禁止にしている。
- ・かんじきなどを貸し出すのは、転んで川に落ちたりなどしたら危ないので難しい。
- ・定山溪神社で行われている雪灯路に2回ほど行ったことがあるが、神社前の階段が急で怖い。
- ・雪灯路の時期に実施しているフォトコンテストの参加方法がわかりづらいので、もっと気軽に参加できるようにしてほしい。
- ・散策路に、浴衣のようなものを着て歩いている男女がいたが、温泉地らしい感じがして良かった。着ている浴衣はどこの旅館のものだろうか、と興味もわく。
- ・定山溪は見るところがたくさんあって素敵だと思うが、年代によって興味が違うので、ターゲットごとに情報をまとめたパンフレットがあるとよと思う。
- ・今日は二見公園や二見吊橋などの良さを再確認したが、さらに磨き上げる努力をしなければいけない。
- ・温泉街としては定山溪中央線を中心として考えていく必要がある。
- ・国道を歩いてみて、拡幅に伴って山側のお店などがなくなるとどうなるのかを想像しながら、今後の街並みをどうしていくのか考えなければいけないと改めて思った。
- ・シャッターの閉まっている空き店舗をどう活用していくのかも考えなくてはならない。
- ・札幌市内ではカフェをやりたい人向けのコミュニティカフェ講座がとても人気で、実際にカフェをオープンさせた人もいる。その人たちに声をかけてみることも考えられる。
- ・東京の雑誌社の方も同じ話をしていたが、観光地というよりもまち歩きをどう楽しむのかという仕掛けを考えたほうがよいのではないかと。首都圏では、たった1軒のカフェができてちょっとしたまち歩きの仕掛けをつくっただけで、土日に何千人もの人が来るようになったまちがある。
- ・若い人がどんどん定山溪に入れるような仕組みを考えたほうが、魅力づくりとしては早いのではないかと。
- ・札幌市民は何を目的に定山溪に来ているのか。散策をする目的で定山溪にきているのか。それを考えると、定山溪は他の温泉地とは違い、今までやってきた一館完結型のシステムはもしかしたら札幌市民の利便性や機能性に合致した姿だったのではないかと。
- ・ちょっとした非日常を求めて、お酒を飲んで温泉に入りリラックスして帰るような札幌市民をメインターゲットにするなら、傷んでいる施設を優先的に改修して綺麗な景観をつくることや、個人住宅などの廃屋を早めに全部なくして温泉街全体を綺麗にすることが重要で、温泉街をつくったり、散策路を深いところまで整備することは重要なのか少し疑問を感じた。

- ・道外・海外の人をターゲットにするのであれば、周辺環境全体を取り組むのは大事だと思うが、市民をターゲットにするのであれば違うと思う。
- ・ピーク時に比べると宿泊客が 20%減っているが、そのほとんどが夜に来て朝に帰る団体客であり、それによって施設としての経営が苦しくなっているが、市民の団体客に以前のように戻ってきてもらうのは難しい。代わりに、地域の街並みを整備して、街並みを楽しむために来てくれるお客様を増やすことを目指し、一致団結してごみ拾いなどの活動から取り組んでいる。
- ・日本の人口がこれからどんどん減っていき、札幌市民も減っていくので、これからは道外・海外からのお客様にも来ていただける観光地にシフトしてはならない。
- ・訪れる人の割合としては札幌市民をターゲットに考えなくてはならないが、ピーク時から減った団体客の代わりにファミリー層・シニア層などに多く来てもらうには、館内で完結させるのではなく、まちに出てもらう装置をつくらなくては楽しみが少なすぎる。
- ・家族連れには、子どもが自然体験をできるだとか、いろいろなことができるほうがよいと思う。旅行に来て何かをしたということがないと、つまらないのではないかな。
- ・全国的にも下火になっている大きな温泉地は、団体客に頼っていて、そこから時代の流れにのってうまく切り替えることができずに衰退している。個人のお客様からもしっかり支持され、いろいろな趣向に合わせた魅力的な滞在の仕方を提案できるようにしないと厳しい。
- ・シティジャズや花火大会などのイベントで定山溪に来てもらうというソフト面での仕掛けは有効だと思う。
- ・散策路を 2km 先などの深いところまで歩いてもらうようにするのではなく、温泉街から 500m 圏内を充実させ、きれいで機能的にしたほうがよいのではないかな。
- ・温泉街にはいろいろなお店があったほうがよいと思うが、採算性が問題である。各ホテルでお土産屋を自粛するなどの対策が必要になるかもしれない。
- ・他の温泉地でも周年事業にお金を掛けてやっているように、それに向けてきちんと予算をかけてイベントを行っていききたい。
- ・パン屋やカフェなど、特色や思い入れを持ってやっているところは成功しているので、そういう人に定山溪で活動（開業）してもらえそうな環境をつくる必要がある。
- ・焦点がぼやけないように、範囲を広げすぎず集中的に取り組むことが必要なのかなと思う。
- ・散策路は同じ道に戻ってくるだけだとつまらないので、周遊できるような楽しみ・仕掛けが非常に大事だと思う。
- ・定山溪の魅力を見出し、外から来て活動（開業）している人たちを大事にして、もっと成功事例をつくってもらい、次に続く人が増えるようなまちにできれば、空き店舗の解消に繋がるのではないかな。
- ・パン屋やカフェのようにお店が点々と少しずつ増えたり、日帰りでランチを食べに来る女性が

増えたり、新しい流れができつつあるので、それをどう上手く取り込んでいくのが課題である。

- 点を増やし、ニセコのような雰囲気を目指してもよいのではないか。八剣山も含め、定山溪温泉郷を広域のものとするなら、旅行雑誌に載るときにも札幌の最後のおまけのようにつくのではなく、食・アクティビティ・温泉など、ニセコのように特集できる。そのためには、もうすこし点が増えるよう活性化すると面白くなるのではないか。